

診療科の壁越え 疾病治療

阪大病院は診療科の壁を越えて患者さまを診察する疾病別センターの設置を進めています。高齢化社会になり増えている前立腺の病気に対応する前立腺センターと、社会問題ともなっている睡眠障害を診断、治療する睡眠医療センターを相次いで開設しました。

がん、肥大症に先端技術駆使

前立腺センター

前立腺センターでは前立腺がんと排尿障害の原因となる前立腺肥大症を主に診察します。

前立腺は男性特有の栗の実を逆さにしたような形で、膀胱の出口で尿道を包んでいます。前立腺がんは大きくなるのが遅く、自覚症状もあまりありません。米国では男性の1位に占めています。日本でも増え続けていますが、食生活の欧米化の影響を受けるこれからの高齢者はさらに発症のリスクが高くなるとみられています。

早期に発見できれば、治る可能性の高いがんです。PSAと呼ばれる前立腺がんの特有のマーカーがあり、健康検診や人間ドックでもがん検診の一環として取り入れられ、早期に発見されることが多くなっています。

センターではPSAの数値に異常のある人の精密検査を行い、がんかどうかの診断をしっかりと、治療をします。また、再発した患者さまの治療にも力を入れます。

前立腺がんの治療は、がんの進行具合によってさまざまな方法があります。再発の患者さまにはホルモン療法を

まう外科的な手術が主流を占めていました。しかし、現在では放射線を外から照射する外照射という治療法や、放射線を出す物質を前立腺に埋め込んで治療する小線源療法(ブラキセラピー)、放射線を出す針を前立腺に刺し込む高線量組織内照射療法など前立腺を残して、排尿障害や性機能の障害も少ない患者さまの体に優しい根治療法もあります。

また、高密度焦点式超音波療法(HIFU)と呼ばれる超音波でがんを治療する先端の治療法や効果の高い新しい抗がん剤も使っていきます。再発の患者さまにはホルモン療法を

中心に、症状を緩和して生活の質(QOL)を高める治療をします。

センターでは泌尿器科と放射線科が協力し、患者さまに適した治療法を説明、患者さま自身に治療法を選択していただきます。

高齢化社会になり、前立腺がんとともに増えるのが前立腺肥大症による排尿障害です。排尿障害は尿が出にくくなることが多いのですが、夜間だけでなく、昼間でも何回もトイレに行く頻尿、排尿をしても尿が残った感じのする残尿感など多様な症状があります。

センターでは排尿障害の原因を明らかにします。前立腺肥大症は前立腺が大きくなるだけ

けではないので、正確な診断が必要です。肥大症と診断されれば、根治療法である内視鏡を使って前立腺を削る手術をするか、症状を

緩和する薬物療法をするかの選択を患者さまにさせていただきます。奥山明彦センター長は「排尿障害やPSA値に異常のある人はかかりつけ医の紹介状を持ってきてください。阪大病院の先端技術を使わせていただきます」と話しています。

群(SAS)であったことがわかるなど睡眠障害が大きな社会問題となっています。

睡眠障害はSASだけでなく、症状や原因もさまざまです。診断や

治療には多くの診療科がかかわる必要があります。センターには神経科・精神科をはじめ、耳鼻咽喉科や歯科、小児科など十数科が登録され、患者さまの症状に合わせて、各科が協力しながら治療にあたっていきます。

SASは大きないびきが特徴で、夜、眠っているときに呼吸が一時的に止まってしまいます。そのために、眠りの質が悪くなり、昼間、ものすごい眠気、寝ても目覚め、寝てしまおうという状態になります。

睡眠障害の診断には終夜睡眠ポリグラフという検査が必要な場合があります。センターでは、1泊2日か2泊

3日で、眠っている間の脳波や脈拍などを調べます。また、眠気の評価テストや耳鼻科的な検査なども行って原因を調べます。

原因が明らかになれば、よい睡眠を得るための生活指導や薬物療法をしたり、外科的な手術を行ったりすることもあります。SASに対して呼吸が止まらないようにするCPAP療法、リズム障害に対する強い光刺激による治療など先端の治療も取り入れています。

外来で治療できることもありますが、入院が必要な時もあります。武田雅俊センター長は「院内の関係する診療科が連携し、多岐にわたる睡眠障害の原因を明らかにし、治療を行うことができます。将来的には日本の睡眠医療のセンターともしていききたい」と抱負を述べています。

「前立腺」「睡眠医療」2センター開設



ブラキセラピーのため、前立腺に小線源を埋める手術(短期入院で可能)

また、緑内障や網膜症を合併しておられる患者さまも入院していますので、そのような患者さまの手術も速やかに行えるようになりました。

また、緑内障や網膜症を合併しておられる患者さまも入院していますので、そのような患者さまの手術も速やかに行えるようになりました。

また、緑内障や網膜症を合併しておられる患者さまも入院していますので、そのような患者さまの手術も速やかに行えるようになりました。

また、緑内障や網膜症を合併しておられる患者さまも入院していますので、そのような患者さまの手術も速やかに行えるようになりました。

また、緑内障や網膜症を合併しておられる患者さまも入院していますので、そのような患者さまの手術も速やかに行えるようになりました。

また、緑内障や網膜症を合併しておられる患者さまも入院していますので、そのような患者さまの手術も速やかに行えるようになりました。

また、緑内障や網膜症を合併しておられる患者さまも入院していますので、そのような患者さまの手術も速やかに行えるようになりました。

また、緑内障や網膜症を合併しておられる患者さまも入院していますので、そのような患者さまの手術も速やかに行えるようになりました。

また、緑内障や網膜症を合併しておられる患者さまも入院していますので、そのような患者さまの手術も速やかに行えるようになりました。

眼科の診察・手術室を増設

待ち時間短縮、日帰り手術もOK

阪大病院の眼科外来の診察室が増設され、日帰り手術のできる手術室も設置されました。待ち時間が短くなるなど、より多くの患者さまの診療ができる体制が整いました。

眼科外来は診断機器や治療機器が多く手狭になってきたうえに本院が行った「待ち時間

調査」でも、診察までの待ち時間が最も長い外来でした。それらを解消するために診察室を4室増設しました。

単に増設しただけでなく、プライバシー保護のために、すべての診察室にドアを設置しました。中待合室の照明も明るくして、患者さまに心地よく待つて

いたできるようにになりました。

眼科診療では白内障の手術など日帰り手術が可能になってきた病気が多くあります。これまでは、入院して手術をしていたのですが、日帰り手術室ができたので、手術後すぐに帰宅していただけるようになりました。

また、緑内障や網膜症を合併しておられる患者さまも入院していますので、そのような患者さまの手術も速やかに行えるようになりました。



新設された眼科外来手術室(左)と増設された診察ブース(右)

米の大学医療施設を視察

ピッツバーグ大学 学びの聖堂



阪大病院のスタッフが米国の移植で知られたピッツバーグ大学メディカルセンター、がんセンターとニューヨークで最大級の医療施設を持つコロニア大学の循環器疾患部門を2月に視察しました。

両大学とも、建物をはじめ大きな設備投資は国や州の予算からまかなわれている点は日本と同じでした。しかし、

医療・保険制度の違いもあり、大学と病院がそれぞれ経営上は完全に独立しており、企業ならびに個人からの寄付が非常に多いことが印象的でした。

診療現場では日本における医療スタッフ以外にも、各病棟ごとに患者さまの移送係、資格を持って医師の補助を行うPhysician asistantをはじめ数多くのさまざまなスタッフが直接患者さまに接していました。そのために、医療スタッフは専門職としての高いプライドと意欲を持ち、本来の自分たちの仕事に専念していました。

タイ視察で共同研究の成果確認

阪大病院のスタッフはバンコク市内のマヒドン大学附属シリラート病院=写真=と私立バンコク病院、大阪大学微生物病研究所がタイと共同研究を行っている感染症共同研究所を視察しました。



タイの医療はわが国に比べ医師や看護師の数が少なく、また都市部と地方においても医療施設数や医師数に格差がみられます。現在、格差の是正に取り組むとともに、わが国と同様に国民皆保険制度も導入され、医療を受けやすい環境の整備が進んでいました。

一方、鳥インフルエンザに代表される新しい感染症やエイズなどの制圧も大きな課題で、大阪大学は共同研究を通じてタイの医療に貢献していることを実感しました。

フォーラムでボランティア理解

阪大病院におけるボランティア活動について考える「第3回阪大病院ボランティアフォーラム」が2月15日に開かれました。荻原俊男病院長が「阪大病院ボランティアの意義」、福岡富子看護部長が「ボランティアと看護部門」と題して話しました。

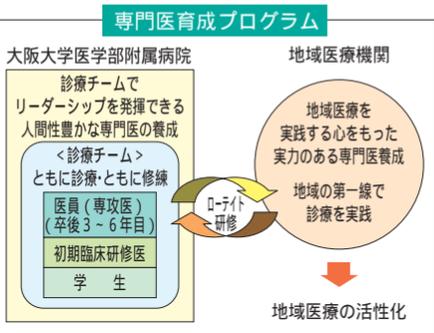
阪大病院のボランティアグループ「ふれあい」代表の倉橋広子氏（日本病院ボランティア協会理事）が「病院ボランティアの存在とは」をテーマに、活動を始めてからの活動内容やボランティアの役割について、講演しました。参加者らは、ボランティア活動についての理解を深めていました。

初診にかかる特定療養費引き上げ

阪大病院では、初診時に治療経過や検査結果を記した「紹介状」をお持ちでない場合にいただく特定療養費を4月から5250円に引き上げました（救急車で来院の場合は除きます）。これまでは2625円でしたが、高度な医療を行う特定機能病院として適正な金額とするための料金改定です。

初診にかかる特定療養費は、初期の診療を地域の医院や診療所で行い、高度な医療・専門医療については200床以上の病院で行う、という医療機関の機能分担を推進するために設けられています。

人間性豊かな専門医に新しい育成プログラム開始



プライマリーケアのできる医師を育てるために2年前から始められた新医師臨床研修制度を修了した医師が、今年度から実践の場で働くことになりました。阪大病院ではこれらの医師により専門性を

このプログラムを終了した医師が地域医療に貢献し、チーム医療で強いリーダーシップを発揮できることを期待しています。

小開胸手術で体の負担少なく



胸腔鏡手術

肺がん治療 呼吸器外科

胸腺腫瘍の手術でも実績 胸骨吊り上げ法を開発

阪大病院の呼吸器外科は急増している肺がんに対して、患者さまに優しい低侵襲手術を積極的に取り組んでいます。また、胸腺のガンや重症筋無力症の治療においては日本一の実績を誇っています。

早期がんの患者さまだけでなく、進行がんや再発した患者さまの治療でも、呼吸器内科・放射線科などとの連携の上で集学的治療を行っています。進行病期の肺がんの場合には、手術前に抗がん剤治療を行い、病巣を小さくしたり、リンパ節へ転移しているがんをなくしたりしてから手術を行います。

手術のように数十センチの傷が残ることはありません。通常の開胸手術より術後の痛みが少なく回復も早いために、入院期間も短くて済みます。内視鏡と直視の併用により、安全、迅速に低侵襲の手術が行えるのです。また、小型の早期がんには、できるだけ呼吸機能を温存する目的で区域切除などの縮小手術も取り入れています。

当科は心臓血管外科とも連携していることで肺がんが大動脈など周辺の血管に浸潤したり、心臓病を合併している患者さまの手術も

阪大病院への満足度 入院9割、外来8割 アンケート調査結果

より満足していただけている病院づくりを目指していきます。

状態の説明がわかりにくいや不十分、入院までの待ち時間が長い、診断や治療の根拠となる情報提供となっていない。患者の話をよく聞いてほしいとの意見も多く寄せられました。

「阪大専門医育成プログラム」をスタートさせました。



がん告知、難病の診断を受けた時... 患者さま、ご家族を支える

がん告知や手術後の経過中に、患者さまやご家族が精神的に落ち込んでしまうことがありま

「心のケアチーム」は、これまで各部署でケアしてこられた方々から、がん告知後のケアがもっとも多くの半数近くを占めています。

なかから適切と考えられる人選を行ってチームを結成。主治医、担当看護師らとケアに当たることになりました。

心のケアチーム発足

「心のケアチーム」は、これまで各部署でケアしてこられた方々から、がん告知後のケアがもっとも多くの半数近くを占めています。